令和6年度 5 月 定例教育委員会会議録

令和6年5月21日（火）

山梨市教育委員会

令和6年度5月 定例教育委員会 議事録

令和6年5月21日（火）午前9時15分から、山梨市役所401会議室に召集された。

1 開会
2 教育長あいさつ
3 新教育委員あいさつ
4 前回議事録の承認
5 協議事項
6 報告事項
7 連絡事項
8 閉会

〇出席者

教育長	嶋﨑 修
教育長職務代理者	天野 有紀
教育委員	窪田 新治
教育委員	原 喜雄
教育委員	相沢 季里

〇欠席者

教育委員	鈴木 徹

〇事務局職員出席者

学校教育課 課長	磯村 賢一
学校教育担当 教育監	小串 吾郎
学校教育担当 指導主事	内藤 健
学校総務担当 リーダー	大畠 芽久美
学校総務担当（議事録作成者）	小田切 咲紀
学校教育担当 リーダー	前嶋 裕樹
学校管理担当 リーダー	髙原 あゆみ

生涯学習課 課長　　武井 学
生涯学習担当 リーダー　　廣瀬 ひろみ

4 協議事項の内容

教育長
議事に入る。(1) 令和7年度県教育施策及び予算に関する要望書について、事務局から説明をお願いする。

学校総務担当職員
資料1-1～2 に基づき説明

教育長
今の令和7年度県教育施策及び予算に関する要望書について、なにか意見等があるか。

窪田委員
教員の優秀な人材の確保ということについて、教員の志望率の低下に伴い採用試験受験倍率が下がっている。中途採用者の確保や免許制度の柔軟な対応を考えていかないといずれ教員志望者がいなくなってしまうのではないかと思っている。県だけでは変えられない部分もたくさんあるから、県含めて国にもっと強力に対応を求めていく必要がある。
昨年、県に臨時で校務支援システムの補助割合についての要望書を県連として提出したが、その内容について要望をあげる必要がないのか？

教育長
要望としてあげた方がいい。

天野委員
18スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置等の要望に関連してだが、各校でスクールカウンセリングは十分に足りているのか？

教育監
現状カウンセリングが受けれなくて困っているという話は聞いていない。

教育長

大きな事件があってどうしても足りないということではない。学校で全員カウンセリングということで問題が無い子も一緒にうけている。本当に必要な時に必要な子が受けれるようにという指導をしている。

校務支援システムの補助についての要望は新規にあげることとし、教育委員への確認はメールで行うということでよろしいか。

他に意見が無ければ、校務支援システムの補助についての要望を新規に追加した要望書をご承認いただくということでよろしいか。

教育委員

承認

教育長

(2)市指定遺跡「城山城郭遺構」の現状変更承認について、事務局から説明をお願いする。

生涯学習課長

資料2-1～4 に基づき説明

窪田委員

地図上にある城山公園は現状「公園」となっているのか？

生涯学習課長

周囲が除草され、公園となっている。

原委員

申請者の NPO 法人はどのような団体か？

生涯学習課長

旧三富村地域の観光イベント等を企画する等、市に協力的な団体であり、西沢渓谷や乾徳山の登山道整備についても協力をしてくれている。

教育長

ほかに意見等あるか？

指定遺跡「城山城郭遺構」の現状変更については承認ということでよろしいか。

教育委員

承認

教育長

次に（3）その他、何かあるか。

教育委員

なし

教育長

事務局いかがか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

6 報告事項

（1）LDX事業キックオフ会議の還流報告について

教育監 説明

教育長

今年度は南中・笛川中学区に広げるかたちでLDX事業を進めて行くが、一番大事なことは昨年度事業対象だった北中学区の学校において、学校や教員が事業が終わったから終わりということではなく事業の目的意識をしっかりと持っていることが大事である。他の学校よりも高い意識を持ち、工夫されているということが継続されていかないと意

味がない。北中学区の学校と先生については発信と実践をお願いしたい。

窪田委員

資料3ページの写真が象徴的だと思うが、複線型の授業は中学校においては高校入試を目指した一斉事業みたいなかたちが定着しているので、なかなか意識を変えられないということがあるのではないか？昨年事業対象だった北中の状況や今年度事業対象の南中の状況を確認しつつ、説明があったような授業が実際に行われて欲しいと思う。子どもよりも教員の意識改革を進めないと絵に描いた餅のような状況になってしまうことが危惧される。

教育監

ご指摘のとおりで、中学校は入試対応があるため、文科省のアドバイザーに対する質問で一番多かったのが、「評価をどうしたらいいか」というものである。複線型の授業を行った時に、「本当に生徒たちにそこまでの学力をつけてあげることができるのか」、「入試にこの体制で耐えられるのか」という不安があり、調査書に評価をいれなくてはならないので、全国的に憂慮されているところである。そこをどう変えていくかということを全国で取り組んでいるところである。

窪田委員

大学のように総合入試のような制度があればいいが、複線型の授業で入試に対応できる最低限の学力が補償できるのかどうかという心配が中学校の教師には必ずでてくる。入試のかたちが変わればいいが、今のかたちのままでは板挟みになってしまうのではないか。最低限の学力を補償しながら協働の授業を進めて行くということだと思うが、教員の意識改革が難しいところだと思うので、先行して事業を行った北中の先生が南中の先生にアドバイス等をしながら少しでも改革できればいいと思う。

教育監

人事異動で交流することにより、前の学校で学んだことを次の学校で啓発していくということを狙っている。学力向上ICT推進委員会の中でもLDXスクール事業とコラボしながら指定校だけではなく市内全体に広げていくということを取り組んでいきたい。

原委員

事業の指定を受けると、その事業をこなすことが目的になってしまい継続性を保つことが難しい。課題が生じたらそれを見える化し共有してもらいたい。

教育監

授業の取り組み等を動画でオンデマンドで見れるようにしてあるのでそういったものを活用してもらうようにする。

全国の先進校では10年以上取り組んで成果をあげているような学校があるが、1～2年では同等となることは難しい。そこを目指しながら長期的に取り組んでいく。

教育長

学校訪問等があるのであぶれる学校がないように市の方向性を示していきたい。

（2）その他

なし

教育長

以上で議事を終了する。